

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



Kobe Global Conference

– 30 Years after the Earthquake: Recovery and Beyond –

April 28, 2025 / Kobe, Japan

開催報告書

目次

◆ 開催概要	3
◆ プログラム	4
◆ 開会挨拶	5
◆ 来賓挨拶	6
◆ 基調講演	7
◆ ハイレベルセッション 1	8
◆ ハイレベルセッション 2	9
◆ パネルディスカッション	10
◆ 神戸市グローバルカンファレンス宣言	12
◆ 講演者一覧	13

開催概要

1. 会議名称： 神戸市グローバルカンファレンス
2. 開催日： 2025 年 4 月 28 日（月）
3. 主催： 神戸市
4. 会場： 神戸ポートピアホテル 本館 B1F 偕楽
〒 650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町 6 丁目 10-1
5. 参加者： 参加者 100 名
6. 登壇者： 海外 7 都市、国内 2 都市（神戸市含む）
7. 主旨： グローバル貢献都市を目指す神戸市において、震災 30 年の節目の年に海外の主要都市を招聘し、各都市の状況に応じた災害対策や異常気象による自然災害への備えについて知見を共有するとともに、未来に向けて都市が果たすべき役割について意見交換を行う「グローバルカンファレンス」を開催し、得られた方向性を神戸市グローバルカンファレンス宣言として発出する。

プログラム

10:00 - 10:05	開会挨拶 久元 喜造 神戸市長
10:05 - 10:10	来賓挨拶 竹本 和彦 イクレイ日本 理事長
10:10 - 10:30	基調講演 久元 喜造 神戸市長
ハイレベル セッション 1	事例に学ぶ／未来への備え モデレーター：Matthew Bach Urban 7 & ICLEI Regional Director Europe 有識者：梶橋 修 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 教授
10:40 - 12:00	Pierluigi Biondi Mayor of L'Aquila, Italy Pia IMBS President of the Eurometropolis of Strasbourg, France Ricardo Rio Mayor of Braga, Portugal, European Union Susan Aitken Leader of Glasgow City Council, United Kingdom
12:00 - 13:30	休憩
ハイレベル セッション 2	事例に学ぶ／未来への備え モデレーター：内田 東吾 イクレイ日本 事務局長 有識者：近本 智行 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 教授
13:30 - 14:50	Barbara Buffaloe Mayor of Columbia, Missouri, United States Eckart Würzner Mayor of Heidelberg, Germany 清水 勇人 さいたま市長 Berry Urbanovic Mayor of Kitchener, Canada
14:50 - 15:10	休憩
15:10 - 17:10	パネルディスカッション モデレーター：内田 東吾 イクレイ日本 事務局長
17:10 - 17:20	神戸市グローバルカンファレンス宣言
17:20 - 17:25	記念撮影

開会挨拶



久元 喜造 神戸市長

皆様おはようございます。まず、初めに阪神淡路大震災から30年の節目に開かれる国際会議の主催者として皆様をお迎えできること、心より光栄に存じます。本日は世界各地から8都市の代表者の皆様にご参加をいただいております。今日1日、共に過ごしていただけることを大変深く感謝いたします。

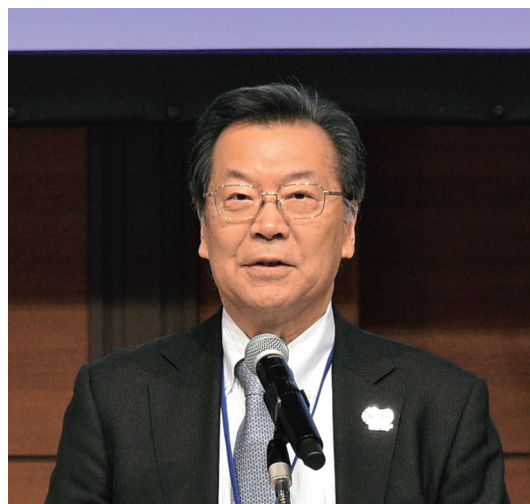
ご存知の通り30年前、神戸は突然、甚大な災害に見舞われました。多くの命が失われ、家屋も損壊し、街は甚大な被害を被りました。しかし、日本国内のみならず、国際社会からも多大な支援をいただいたおかげで、私たちは復旧・復興を成し遂げることができました。この場をお借りして困難な時期に寄せられたあらゆる支援に対し、心から感謝の意を表しますと思います。

この30年間、神戸はこの震災から得た教訓を後世に伝えるとともに、新しい技術を積極的に取り入れ、強靱な都市づくりに取り組んでまいりました。すべての市民が安全で幸せな生活を送ることができ、若者たちが活躍し、持続可能な未来に貢献できるようなコミュニティの構築を目指して努力を重ねてまいりました。この後、私たちのこれまでの歩みと取り組みについてご紹介をさせていただきます。

また、皆様方の防災分野における優れた実践例を学ぶことを非常に楽しみにしております。さらに、その後、持続可能な社会の実現における都市の役割についても意見交換ができればと願っております。そして、最後には議論の成果をまとめた共同声明を発表する予定です。

本日の会議が実り多い交流の場となり、皆様にとって有意義なものとなることを心より願っております。ありがとうございました。

来賓挨拶



竹本 和彦 イクレイ日本 理事長

皆様、おはようございます。イクレイ日本を代表しまして、今日は御礼を申し上げたいと思います。久元市長、このような場に、またこのような機会をいただきましてありがとうございます。このような素晴らしい神戸市において、神戸市グローバルカンファレンスを開催いただいたことに感謝を申し上げます。このような素晴らしい会議が開催されることを非常にうれしく思います。

久元市長もおっしゃいましたが、このグローバルカンファレンスは阪神淡路大震災から30年の節目に行われます。素晴らしい皆様にお越しいただき、世界中の都市の市長、そして指導者の皆様にお越しいただき開催されます。この会議の目的は経験を共有すること、そして経験から学ぶことです。市長や指導者の間で過去の教訓から学び、いかにして都市が貢献することができるのか、持続可能な、そしてレジリエントな世界を形作っていくことができるかを議論するものです。

イクレイは都市や地方自治体をつなぐグローバルなネットワークです。イクレイでは持続可能な、またレジリエントな未来を創るべく取り組んでいます。我々のネットワークは2,500の都市と地方自治体を会員として擁しています。今回は共に世界中の市長、そして指導者の皆さんと、自然災害など共通の課題に関して、どのような解決策があるのかを議論することができることを非常にうれしく思っています。

最後になりますが、ご参加の皆様、今日は素晴らしい議論ができることを願っております。積極的な議論を楽しみにしております。ありがとうございます。

基調講演



久元神戸市長は、30年前の阪神淡路大震災の経験と教訓を踏まえ、災害に強いレジリエントな都市づくりに向けた神戸市の取り組みを紹介し、今後の災害への備えとして、自治体間の連携や住民の自助・共助の重要性を強調した。

久元 喜造 神戸市長

30年前の1995年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.3の地震が神戸を襲いました。地震直後、神戸市の多くの地域で断水が発生し、約3カ月間続きました。建物も大きな被害を受け、火災も発生しました。そして、多くの命が失われました。

この経験から、神戸市は災害に強いレジリエントな都市を目指し、いくつかのプロジェクトを開始しました。その1つが大容量送水管の建設です。約12日分の飲料水を貯水できるもので、災害時には市民への給水を行います。また、下水処理場のネットワーク化も進められました。これらの事業は、多額の費用と長い年月、そして職員の強い意志によって実現しました。さらに、建物の耐震化を推進するために、市民への補助や診断、建て替えなどの対策も行っています。密集した建物を除去し、空地を整備することで、火災の延焼防止にも努めています。ハード面だけでなく、市民参加による防災の取り組みも重要です。地域ごとの防災訓練や、子どもたちへの防災教育も積極的に進めています。

災害は行政にも影響を与えます。神戸市役所も被災し、職員もまた同様でした。そのため、災害発生後も業務を継続するための計画の策定は不可欠です。今後の災害への備えとしては、南海トラフ巨大地震などが懸念されており、神戸市では津波対策として防潮堤の整備を進め、遠隔操作による水門・ゲートの開閉システムを導入しています。

さらに、最新のテクノロジーを活用した災害対応も求められます。例えば、スマートフォンのアプリで避難所の位置や混雑状況を確認できるサービスも始めています。地球規模での課題である気候変動対策に関して、神戸市では、再生可能エネルギーの活用や水素を使った船の建造などを進めています。また、市域の約4割を占める森林の保全も重要な課題であり、森林火災を防ぐために、里山を再生し、適切に木を管理することも行っています。

災害への対応は、自治体間の連携が不可欠です。近年では、被災自治体への広報支援など、DXを活用した支援も行われています。神戸市は、過去の震災経験から、災害に強いまちづくりを進めてきました。しかし、災害はいつ、どのような形で起こるかわかりません。そのため、防災DXの推進、自治体間の連携、そして住民の自助・共助の重要性を改めて強調したいと思います。

ハイレベルセッション1



「事例に学ぶ／未来への備え」

世界各地の都市の事例紹介と、未来への備えについて議論された。モデレーターは Matthew Bach 氏が務め、4 都市の代表と有識者の槻橋修氏が登壇。各都市の事例紹介や、持続可能な都市開発、災害への備えなど、多岐にわたるテーマで意見交換が行われた。各市からは、都市間のネットワーク構築や、市民との連携の重要性などが強調された。また、気候変動への対応など、グローバルな視点での議論も展開された。

- ◆ Pierluigi Biondi 氏は、ラクイラ（イタリア）の復興における文化遺産の重要性を説明。2009 年の地震で都市機能が麻痺する中、市民、自治体、国が協力して復興モデルを構築したことを語った。復興はコミュニティの再生であり、信頼を取り戻すプロセスであると強調。また、文化を再生の柱とし、経験を共有していく意欲を示した。
- ◆ Pia IMBS 氏は、ストラスブール ユーロメトロポリス（フランス）では国と自治体が連携して災害対策に取り組んでいることを説明した。都市計画における洪水リスク管理、住民への情報提供、予防策への支援などを実施している。気候変動の影響で災害リスクが増大する中、都市間の協力と SDGs の推進が重要であると強調した。
- ◆ Ricardo Rio 氏は、ブラガ（ポルトガル）における気候変動の影響と、都市の役割について語った。気候変動への適応と緩和策を講じる必要に迫られている現在、同市では、持続可能な都市開発と市民参加型の対策を進めていることを紹介。資金調達の課題や、都市と国家間の連携不足などが対策推進の妨げになっていると述べた。
- ◆ Susan Aitken 氏は、グラスゴー（イギリス）における市民参加型の気候変動対策を紹介した。市民と気候変動に関する意見交換を行い、その意見（グリーンエコノミーにおけるスキル習得の必要性など）は市の政策に反映されていると述べた。同市は、市民の声を政策に取り入れ、持続可能な都市の実現に向けて取り組んでいると説明した。

○ 槻橋修氏のコメント ○

槻橋修氏は、災害からの創造的な復興において、記憶の継承と更新が重要であるとし、過去の経験を未来に活かす視点と、変化する社会に対応するための柔軟な思考の必要性を強調した。また、復興過程における多様な関係者の関わりや、創造性を発揮するための条件についても言及。これからの都市は、過去の記憶を継承しながら、新たな価値を創造し、変化に対応していくことが求められると述べた。

ハイレベルセッション2



「事例に学ぶ／未来への備え」

ハイレベルセッション1と同じテーマで、セッション1とは異なる4都市の事例と将来への備えについて議論された。モデレーターの内田東吾氏が進行を務め、各都市の代表と有識者の近本智行氏が登壇。各都市が直面する課題は異なるものの、気候変動の影響、災害対策、市民との連携、技術の活用など、多岐にわたるテーマで議論が交わされた。そして、レジリエントな都市づくりに向けた共通の目標が確認された。

- ◆ Barbara Buffaloe氏は、コロンビア（アメリカ）の気候変動適応プログラムを紹介し、災害からの復興における学びと将来への備えについて語った。特に、全米市長会を通じた都市間の連携と、ベストプラクティスの共有の重要性を強調。市民とのコミュニケーションを通じて、気候変動対策を日常生活に根ざした問題として捉える取り組みを紹介した。
- ◆ Eckart Würzner氏は、ハイデルベルク（ドイツ）の気候変動対策とレジリエンスへの取り組みを説明。市民参加の重要性を指摘し、都市のグリーン化、エネルギー効率化、持続可能なモビリティなど、多岐にわたる施策を紹介した。また、気候変動対策における国家と都市の役割分担についても言及した。
- ◆ 清水勇人氏は、さいたま市（日本）の気候変動への適応と、レジリエントな都市づくりに向けた取り組みを紹介。2019年の東日本台風での経験を踏まえ、避難所の整備、防災アプリの開発など、具体的な対策を説明した。デジタル技術を活用した防災対策にも力を入れていることを強調した。
- ◆ Berry Vrbanovic氏は、キッチナー（カナダ）のレジリエンス戦略と、地域社会の強靱性を高めるための取り組みを紹介。気候変動の影響を受ける中で、インフラ整備、コミュニティとの連携、革新的な解決策の導入などを通して、持続可能な都市を目指す姿勢を示した。また、都市間の協力と知識共有の重要性を訴えた。

○ 近本智行氏のコメント ○

近本智行氏は、各都市の発表内容を踏まえ、セッション全体を総括した。昨今の災害の根底には地球温暖化があるという認識を示し、地域ごとの災害事例が紹介されたことを指摘した。また、都市が取り組むべき課題として、レジリエンスの概念を掘り下げ、リスクと不確実性への備えの重要性を強調。技術革新が都市のレジリエンス向上に果たす役割にも言及し、今後の都市計画においてレジリエンスがより重要になると述べた。さらに、利害関係は国家間ではなく人類共通のものであるとし、市民を「地球市民」と捉える視点を提示した。

パネルディスカッション

本パネルディスカッションでは、これまでのセッションで取り上げられた、各都市が直面する自然災害、気候変動、人口動態、経済、平等性といった課題と、それらに対するレジリエンス向上の取り組みについて、さらに深い議論がなされた。モデレーターはイクレイ日本事務局長の内田東吾氏が務めた。また、参加者が神戸市の復興事例を視察して得られた知見や、各都市が取り組むべき対策についても意見が交わされ、市民参画の重要性、都市間の連携、そして科学的知識に基づくアプローチの必要性が示された。

Q1

ハイレベルセッションでの他都市の発表・取組に対する感想

- ◆ 各都市の経験には共通点が多く、こうした場で積極的に学び合うことが重要である。
- ◆ 気候変動で自然災害が激甚化する中、首都だけでなく多様な自治体が国際組織や国と連携し情報発信する必要がある。
- ◆ 神戸市の復興は市民参画が素晴らしく、震災を新たな創出機会とし、科学的知識に基づく力強い立ち上がりを示した。
- ◆ 日本では災害リスク認識が若年層にも浸透し、レジリエンスの基盤となっている。これは多様な災害対策に有効である。
- ◆ 地震や洪水、気候変動、高齢化などの危機が社会分断を生むこともあり、各地域で多様なレベルのコミュニケーションが不可欠である。

○ 久元神戸市長コメント ○

本カンファレンスを通じて、市長やリーダー各氏が民主主義の最前線で市民と真摯に対話し、意見の違いを調整しつつ共に前進し、困難な課題にも自信をもって取り組んでいると強く感じた。

Q2

未来に向けたレジリエントな都市の役割と取組について

- ◆ レジリエントな都市には多様性が不可欠で、文化的統一性も維持すべきである。市民との継続的な対話と政策の工夫が必要だ。
- ◆ 科学的情報を活用し、都市と市民に力を与えることが重要である。
- ◆ 「健康」と「アーバニズム」がレジリエントな都市づくりの鍵となる。
- ◆ 地方自治体のリーダーは次世代育成の視点を持ち、困難な選択に勇気を持って臨むべき。
- ◆ レジリエントな都市は市民にウェルビーイングを提供し、多様性を尊重しつつコミュニティのまとまりを保つ。経済・社会・環境を包括的に対応し、データ活用で説明責任を果たし、SDGs 達成を目指すことが重要だ。
- ◆ SDGs を通じて、ある都市の解決策が他都市でも活用可能であり、すべての市民が成功できるレジリエントな町を目指すべきである。

○ 久元神戸市長コメント ○

ソフト面の改善やアプローチも重要だが、神戸での経験を踏まえると、レジリエントな都市の最重要条件は、住宅の安全性確保と、強靱な都市インフラ（水道、高速道路、鉄道など）の維持管理であると考えている。

Q3

都市の役割、課題について

- ◆ 自治体、市民、国、事業者が役割を分担し協力して災害や危機を乗り越える必要がある。自治体は市民・事業者と連携し合意形成を進め、課題解決の役割を担う。
- ◆ 都市は国際社会で大きな役割を果たし、米国の都市大使制度のように外交の最前線に立つべきである。国連やSDGsと連携し、持続的取り組みを続けることが重要だ。
- ◆ G7・G20や国連の文書で地方自治体の役割が強調され、連携が不可欠とされている。
- ◆ 都市外交の重要性が増し、G7都市代表の連携や共同声明が政府間対話の機会となっている。多層的対話と政策決定に市長も積極関与すべきだ。
- ◆ 都市自治体は公共サービスを通じ具体的解決策やイノベーションを生み出し、その能力を活かして国際社会に政策の重要性を訴える必要がある。

○ 久元神戸市長コメント ○

都市自治体は地域社会と直接向き合い、市民や企業と協働して迅速に課題解決に取り組む実行主体である。権限強化と国際連携を進めていきたい。

Q4

日本／神戸から得られた学びや気づきについて

- ◆ 日本の秩序正しさと過去の教訓、未来を見据えた防災教育、神戸の市民主体の都市外交。
- ◆ 子供のコミュニティ参加や、行動を起こさないことのコスト、将来を見据えた勇気ある投資。
- ◆ 災害復興や強靱な社会インフラ、市民のルール遵守と緑地創出などの多くの模範。
- ◆ 日本の信頼文化は優れており、防災職員やNGO、持続可能な開発担当者が神戸で学べることは多い。
- ◆ リーダーシップの重要性。自治体への信頼と市民協力が問題解決の鍵である。
- ◆ 神戸のインフラ整備や安全確保。文化・国を超え共通点を見出し、市や国を超えた連携を深めたい。

○ 久元神戸市長コメント ○

神戸への温かい励ましと率直な意見を受け感謝する。課題もあるが、経験と記憶を大切にしつつ、多方面と連携して前進していきたい。



神戸市グローバルカンファレンス宣言

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

神戸市グローバルカンファレンス宣言

1. 背景

阪神・淡路大震災から30年の節目を迎え、神戸市は、世界中からの励ましと支援に対し、改めて深い感謝の意を表します。未曾有の大災害を経験した神戸市はこの30年の間、国内外からたくさんの支援をいただくことで復興を果たし、災害に強いまちづくりを進め、市外の被災地支援にも積極的に取り組んできました。

一方、世界各地で気候変動の影響等により、自然災害が激甚化・頻発化し、また洪水、山火事の発生など多様化しており、これまで経験したことのない事態に見舞われる自治体が増えています。このような中、世界各国の都市が互いの経験や取り組みを共有することが求められており都市間の連携やそれを支援する取り組みも増えています。

「神戸市グローバルカンファレンス」では神戸市における自然災害の経験・教訓や、都市の強靱化に向けた様々な施策を含め、自治体間で経験や取り組みを共有し、今後起こりうる災害への備えや、レジリエントな都市の実現に向けた議論を行いました。

2. 都市が果たすべき役割

各都市が置かれている状況に合わせた災害対策、復興施策などの取り組みについて共有し、未来に向けて都市が果たすべき共通の役割が見つかりました。

(1) 都市が直面する共通の課題

- ・気候変動など、地球環境の変化に起因する自然災害の発生
- ・突発的に発生する自然災害への対応、単独自治体としての対応の限界

(2) めざすべきレジリエントな都市の姿

- ・日常からの防災・減災の視点に立ったまちづくりにより、自然災害リスクを最小化
- ・発災時においても行政機能を維持し住民の命と暮らしを守る
- ・救援や復興支援を公平に行う

(3) 実現するための具体的取り組み

- ・都市としての気候変動対策
- ・防災DX推進
- ・自治体職員の人的リソースの最適化
- ・住民による自助・共助の支援(平時からのコミュニティ形成、防災教育、防災意識向上)
- ・UCLG、ICLEI、C40などを通じた自治体間連携とマルチレベル・コラボレーション

3. 総括

現代において、自然災害対策やレジリエンスの強化は不可欠です。その中で、住民に一番身近な自治体が果たす役割は大きく、地域のニーズを的確に把握し、迅速に施策を決定・実施することは大変重要です。

神戸市グローバルカンファレンスに参加した各都市は、国際的なコミュニティとの協力のもと、今後とも都市間での知見共有や交流を進め、グローバルレベルでの防災・減災の実現を目指し、安全で持続可能な社会の構築に貢献することをここに宣言します。

2025年4月28日

神戸市
ブラガ市(ポルトガル、EU)
コロンビア市(アメリカ ミズーリ州)
グラスゴー市(イギリス)
ハイデルベルク市(ドイツ)
キッチナー市(カナダ)
ラクイラ市(イタリア)
さいたま市
ストラスブール・ユーロメトロポリス(フランス)

講演者一覧



久元 喜造
神戸市長

神戸市（日本）

神戸市は、魅力ある街並みのほか、市街地に隣接する瀬戸内海と六甲山、山側へ広がる里山農村地域など、豊かな自然環境に囲まれた街です。1868年の開港以来、新しい気風や多彩な文化を取り入れながら、神戸独自のブランドを確立し国際都市・神戸として発展を遂げてきました。「海と山が育むグローバル貢献都市」をテーマに、震災を経験し、乗り越えてきたまちとして、利他の思いを醸成し、広げていくとともに、環境保全などグローバルに貢献するまちづくりを進め、市民一人ひとりが安心安全で心豊かに幸せを実感できる都市をめざしています。



Pierluigi Biondi
Mayor of L'Aquila, Italy

ラクイラ市（イタリア）

イタリア中部にあるアブルッツォ州の州都、ラクイラは、豊かな歴史を誇る文化的な都市です。2009年の地震で大きな被害を受けましたが、その復興は、復元と革新そして文化再生の国家的および国際的モデルの役割を果たしました。また、ラクイラはイタリア文化首都 2026 に選ばれており、再生と創造的エネルギーを象徴する存在となります。



<ハイレベルセッション 1>

Pia IMBS
President of the Eurometropolis of Strasbourg, France

<パネルディスカッション>

Françoise Schaetzel
Vice-President of the Eurometropolis of Strasbourg, France



ストラスブール・ユーロメトロポリス（フランス）

ストラスブール・ユーロメトロポリスはフランスのグラン・テスト地域にある広域行政組織で、ストラスブールおよび周辺の 32 の自治体で構成されています。

活気ある経済、文化遺産、持続可能な開発へのコミットメントで広く知られる一方、欧州の主要な機関の拠点にもなっています。また、豊かな暮らしと先進的な都市戦略を誇り、国際協調とイノベーションを促進する重要な役割を果たしています。



Ricardo Rio
Mayor of Braga, Portugal, European Union

ブラガ市（ポルトガル）

ポルトガルの北部にあるブラガは、ポルトガル第三の都市圏にあり、人口は 20 万人を超え、その 40 パーセントが 30 歳未満、約 15 パーセントが 130 の国からやってきた外国人です。

ブラガは 2000 年を超える歴史、伝統、遺産を誇り、ユネスコ世界遺産「ボン・ジェズ・ド・モンテ聖域」をはじめ、街のあらゆる場所で活気に満ちた文化遺産とすばらしい風景を目にすることができ、多くの観光客を魅了しています。

また、過去 10 年間の強力な経済開発戦略によって豊かな投資を呼び込むとともに多くの雇用を創出し、現在は欧州委員会から「ヨーロッパで最も創造的な都市」に選定されています。

講演者一覧



Susan Aitken

Leader of Glasgow City Council, United Kingdom

グラスゴー市（イギリス）

グラスゴーは変遷を特徴とする都市です。かつて貿易と重工業で発展した歴史をもつグラスゴーは、国家経済の原動力として再び活を取り戻し、スコットランドの社会と技術革新の先導役を果たしています。63万5,000人を超える人口を擁し、185万人以上の人々が暮らす大都市圏の中心に位置するグラスゴーは、活気あふれる多様性に富んだ都市で、常に刷新と改革を求め続けています。さらに政策や教育に関する幅広い都市ネットワークと連携し、COP26では開催都市となり、2030年までに炭素排出量実質ゼロを達成するという意欲的な目標を掲げています。



Barbara Buffaloe

Mayor of Columbia, Missouri, United States

コロンビア市（アメリカ）

ミズーリ州で4番目に大きな都市であるコロンビアは、アメリカ中西部の中心に位置しています。活気ある大学都市として、コロンビアはイノベーション、サステナビリティ、そしてコミュニティ意識を兼ね備えた都市です。ミズーリ大学を擁するこの都市では、教育、創造性、市民の参加が重んじられています。また、気候変動に強く、経済的包摂を実現し、あらゆるレベルの政府との連携に根差した未来を創ることに尽力しています。



Eckart Würzner

Mayor of Heidelberg, Germany

ハイデルベルグ市（ドイツ）

荘重な城跡と空想的な旧市街で世界的に知られるハイデルベルグには、年間1,000万人を超える観光客が訪れています。一方、ハイデルベルグはイノベーションの中心地でもあり、ドイツ最古の大学都市として、最先端の研究、活力に満ちたスタートアップシーン、AIとライフサイエンス分野の先駆的企業を擁して科学を牽引しています。ハイデルベルグは強力な国際的パートナーとネットワークを有し、人口一人あたりの企業数でドイツ第1位を誇り、起業家にとって重要な拠点となっています。また環境保護のリーダーでもあり、持続可能な都市計画と気候変動に関する意欲的な目標を掲げて、2023年にはドイツで最も持続可能な都市に選ばれました。



清水 勇人

さいたま市長

さいたま市（日本）

政令指定都市移行から今年で22年目を迎えたさいたま市は、首都圏と東北、信越、北陸の諸都市を結ぶ交通結節点という立地や首都圏有数の自然資源を生かし、高度な都市機能と豊かな自然とが調和した「上質な生活都市」の実現に向け取り組んできました。幸福度ランキングでは指定都市中で総合第1位を獲得、SDGs先進度調査では全国815市区中第4位となるなど高い評価を受けており、0歳から14歳までの転入超過数が9年連続で全国1位となるなど、子育て世帯を中心に「選ばれる都市」として、現在も成長を続けています。



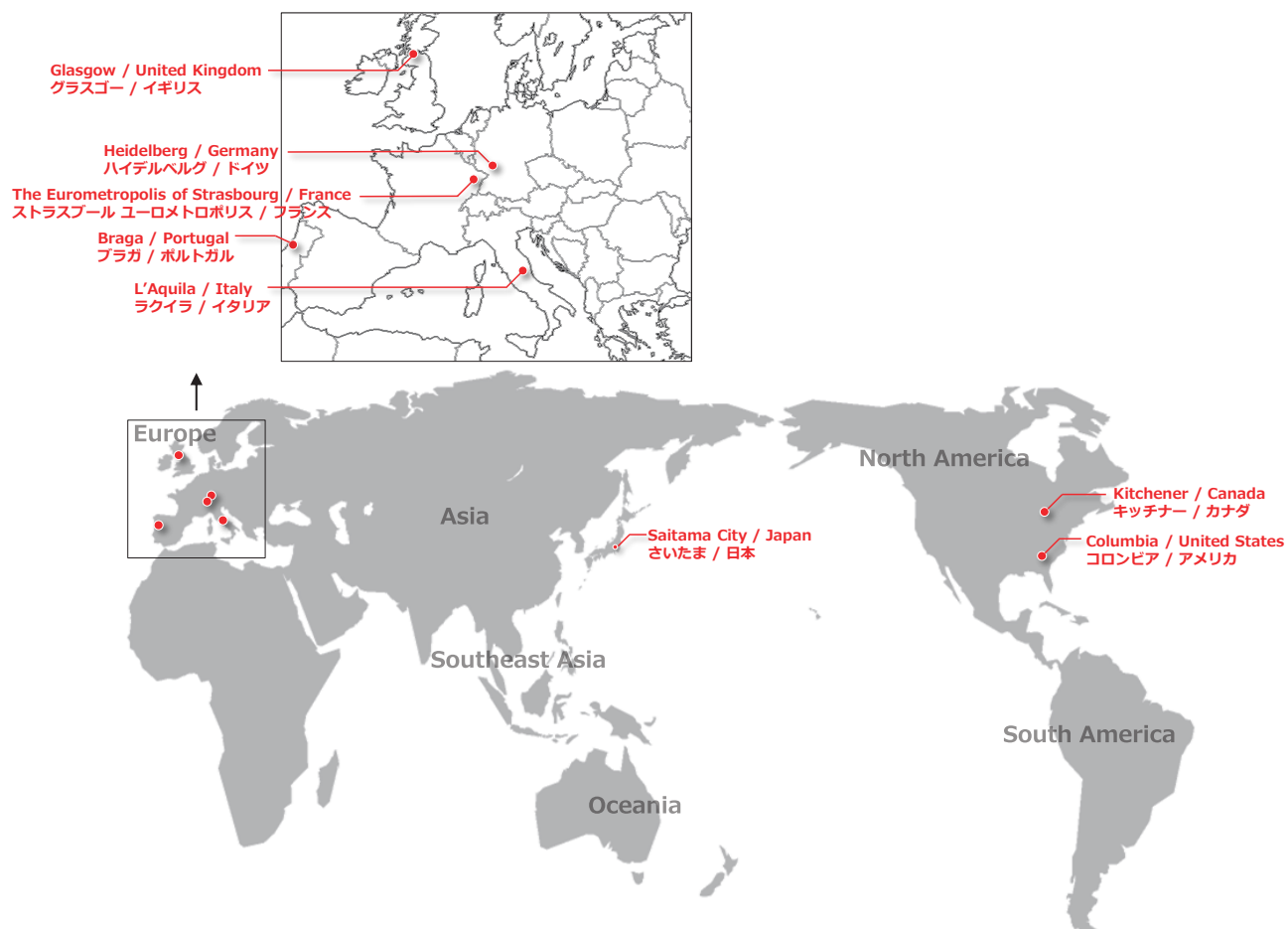
Berry Urbanovic

Mayor of Kitchener, Canada

キッチナー市（カナダ）

人口30万4,000人を超えるキッチナー市は、ウォータールー地域最大の都市で、カナダで10番目に大きい都市圏統計地域です。キッチナー市はトロント・ウォータールー・イノベーション・コリドーの西端に位置し、製造業からヘルステックのイノベーションまで、幅広い経済基盤を備えています。第一次大戦前にベルリンと呼ばれていたキッチナーは、現在では多様性に富んだコミュニティとなり、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に力を注ぐとともに、誰もが力を合わせて周囲の世界を——そして互いを——大切にする都市づくりに尽力しています。

参加都市



BE KOBE

**震災30年を
未来につなぐ**

